



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報



2021年3月 NO.43

間近となった全面開園



<春を待つ湿地

ヤマアカガエルの卵塊が幾つも>

<目次>

■ 今後の進め方について	2
■ 台峯の現在と今後	3
■ 「会員の集い」開催報告	5
■ 「台峯を歩く会」と 関連活動の報告	6
■ 北鎌倉「緑の洞門」	8
■ 鳥の名前よもやま噺⑧ ジョウビタキ	9
■ 台峯の周辺 ㉑ 『鎌倉衛生時報』	11
■ 活動記録・原稿募集	12

.....
今後の進め方について
.....

台峯の全面開園は当初予定の 2021 年 4 月からは遅れるようですが、工事も進んでおり、同年度中に実現する見込みです。

本誌前号や「会員の集い」などでご説明申し上げておりますように、この際特定非営利活動法人(NPO法人)としての当基金は解散し、今後はより身軽な任意団体の形で自然保護活動に励んで行きたい、と理事会は考えております。

幸い皆様からご賛同の声が多く、特段大きなご異論もないようなので、理事会として今後の進め方につき具体的に計画致しました。

まず解散方法ですが、定款の規定により、正会員による総会での決議によるものとします。また、この臨時総会を開催する時期は、今年の 9 月末に置きました。

従いまして、2021 年 9 月までの上期は従来通りにNPO法人たる基金が「台峯を歩く会」や「山の手入れ」などを主催し、その後 9 月末に総会で解散が承認されれば、10 月以降は新設される予定の任意団体が各種行事を引き継ぐ形で主役となります。

解散時には、定款により緑地保全積立金は勿論、残余財産は全て市に寄付されます。また、その際に発行する当会報最終号は記念誌とし、NPO法人としての 21 年間の基金の歴史を記録する方向で計画しています。

総会での議決結果は判明次第皆様にご報告しますが、解散の場合は後任の任意団体から皆様へご入会のお誘いが別途届くものと思われま。その節は是非ご加入下さい。そして、ご一緒に全面開園した台峯を歩きましょう。
理事長 出口 克浩

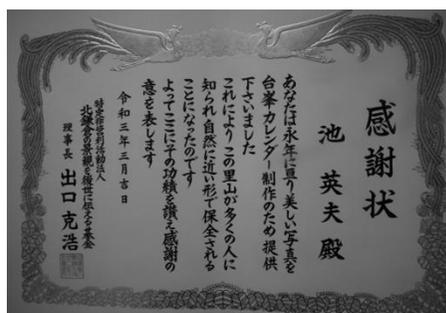
カレンダーの写真撮影・提供者

池 英夫氏に感謝状

皆様に昨年末お配りした 2021 年カレンダーは如何だったでしょうか。

永年に亘り美しい写真を当基金カレンダー用に撮影、毎年無償で提供下さった池 英夫氏に、基金として謝意を表したく、理事長が感謝状をお贈りました。

このカレンダーにより台峯のすばらしさが多くの方に知られ、その保全のあり方にも繋がったものと感謝しております。有難うございました。



<台峯に春が>

満開のヤマザクラ (3/18、配水池脇)



ヤマアカガエルのオタマジャクシ(3/20 谷戸の池下)



台峯の現在と今後

台峯の工事がほとんど終了しましたが、2021年度の開園がいつになるかは未定です。山崎小学校の裏の谷戸(清水谷戸・田畑跡地)にトイレを兼ねた道具置場が作られています(写真①)。同じ場所にある北大路魯山人の旧跡をどのような形で公開するか、明確な見通しは立っていないようです。



写真①

●最近の台峯の様子

ベンチの設置: 予定通り、山崎小学校側の入り口(写真②)と台峯の尾根筋(写真③)に設置されました。

階段の安全対策: 基金から指摘した箇所(写真④)の補修がされました。



②



③

●谷戸の池の補修工事の問題点

前号でお伝えしたように、水漏れ箇所と思われる部分に、プラスチック製のプレートが入れられました(写真④)。その結果、水位が30センチほど上昇しましたが、池の落ち口(滝)から水が流れるには至らず、相変わらず蛇籠(ふとんかご)の下から水が漏れている状況です(写真⑤)。市の公園課を訪問し改善をお願いしました。



④



⑤

●谷戸の池周辺の自然の変化

1) 堤防の植物



⑥

前回、基金による、堤防に生えてきた植物の管理についてお知らせしましたが、その成果が出てきました。現在、イグサ(湿地の植物)が堤防を覆うように生えてきました(写真⑥)。引き続き、樹木の幼木や外来の帰化植物を除去していく予定です。

2) 堤防周辺の水溜り

一昨年の台風による土砂崩れで、山側の堤防の下に深い池のような水溜りができましたが、そのままの状態です。水深があるため、ウシガエル(食用ガエル)のオタマジャクシが越冬しており、カワセミが餌にしているようです。ウシガエルは外来種ですが、カワセミの越冬に役立っているようです。また、堤防の湿地側に浅い水溜りが出来ており、2月にヤマカガエルが産卵(写真⑦)しました。浅い水溜りなので、トンボやカエルにとっては格好の産卵場所となりそうです。



⑦

●谷戸の池の今後に向けて

台峯緑地の特徴となっている溜め池を、良好な状態で保全するためにどのように管理していくかは大きな課題です。

1) 堤防の落ち口(滝)から水が流れない問題

時間の経過と共に水漏れが止まると説明されてきましたが、さらなる補修が必要と感じます。引き続き、監視を続けると共に、行政と話し合いを継続していきます。溜め池の落ち口(滝)から水が流れるような、本来の溜

め池の姿を目指したいと思います。

2) 泥の撤去と水面の拡大

谷戸の池の流入口(南側)に溜まった泥(写真⑧)を、多少なりとも撤去(移動)することで池の水面が広がると思われます。泥を土のうに入れて撤去するという考え方もありますが、池の中心部に移動することで、浅瀬を作り、可能なら、アシやクサヨシなどを繁茂させ、トンボなど生物が棲みやすい環境を創出することも考えられます。



⑧

3) 池の管理はどうなる? 水抜きと泥上げ

今後は、管理者である公園協会が主体になるのかもしれませんが、谷戸の池の管理は大きな課題です。年に一度は水抜きをすることで、水質管理のみならず、外来種の駆除にも役立ちます。水を抜くとブラックバスなどの外来魚はタヌキなどに捕食されやすいのです(工事の際もそうなったようです)。難しいのは泥の管理でしょう。中央公園の池と違い、上流からの土砂の流入が多いので、放任していると池が埋まるばかりか、ヘドロとなって水質が悪化します。

池底から泥を浚渫する工事は無理なので、池の流入口で泥をストップする必要があります。そのための仕組みとして池の上流部に沈砂池を設けてありますが、手入れがされていないので埋まってしまっています。今後、少しずつでも土砂を撤去していかなければならないでしょう。

理事 久保 廣晃

.....

「会員の集い」開催報告

.....

2020年11月23日(月、祝日)13時30分～15時00分 山ノ内公会堂におきまして「会員の集い」を開催し、30名ほどの方にお越し頂きました。

なお、コロナ禍ですので、感染対策を施し最低限の内容で時間を短縮して実施いたしました。



1. 司会進行(本田理事)

会員の集いは本田理事の司会進行で定刻に開会いたしました。

2. 理事長挨拶

会の今後の方針を含めて出口理事長より冒頭ご挨拶を申し上げます。



3. 台峯の話(久保理事)

開園に向けた工事の進捗や問題点につきご報告がありました。



4. スライドとお話「台峯の四季」

(望月眞樹理事)

「会員の集い」恒例のトーク・プログラム。台峯の四季の自然をお楽しみいただきました。



【番外】

感染防止対策の如何として会場入り口に体温計が設置され、参加者の皆様には検温していただきました。

ソーシャルディスタンスに配慮し、慎重に開催しましたが、お陰様で無事に催しを終えることが出来ました。



報告:理事 小谷 一夫(写真も)

.....
「台峯を歩く会」と関連活動の報告
.....

2020年3月より2021年2月までの「台峯を歩く会」と関連活動のご報告を致します。

この会は、1998年11月「台峯トラスト」設立と同時に、スタート致しました。なだ元理事長も「長く続ける事が重要」と言われておりましたが、今年の2月で268回と成りますが、今年4ヶ月です。(編集部註:以上はNPO法人化以前の時期や期間を含む)

一昨年は、台風の直撃や、谷戸の池工事による谷戸底進入禁止等、又担当理事久保さんの病欠など、様々な事が有りましたが、皆様の努力と協力で、何とか乗り越えて来ました。

そこへ追い打ちをかけるように、「コロナウイルス問題」が起きました。私達の山歩きも3月、4月、5月、6月と鎌倉市からの指導もあり、中止としました。7月も雨天中止と成りましたので、今回の報告は2020年8月～21年2月迄です。

<2020年>

8月16日

半年ぶりの実施となり、参加者が有るのか心配しましたが、12名の参加が有り、6か月の空白も感じませんでした。

・観察のテーマ:

1. アゲハチョウの仲間
2. 今、満開の花 キンミズヒキ、ヒヨドリ花、センニンソウ
3. 「緊急事態」 「ナラ枯れ」急増 キクイムシに侵入されたコナラ等

・報告事項:

9月21日「マツムシを聴く会」および
11月23日「会員の集い」の案内

9月20日

翌日開催予定の「マツムシを聴く会」の下見を兼ねて実施。

・観察のテーマ:

1. 老人の畑とその周辺の野草 ヤハズソウ、トキワツユクサ
2. 老人の畑とその周辺の貴重な昆虫 マツムシ、ショウリョウバッタモドキ、バッタ/コウロギ/キリギリスの違い

9月21日「マツムシを聴く会」

マツムシは例年より多く感じられた。今年は草刈りが行われなかった影響かと考えられる。11名のご参加。

10月18日

台峯の湿地の秋を満喫すると同時に、老人の畑から渡り鳥の観察。アサギマダラの観察など興味深いものが有りました。

・観察のテーマ:

貴重な湿地の植物と秋の花畑。台峯の湿地は、昔の田んぼの跡地が、豊かな生態系を作っている。 ツリフネソウ、ミゾソバ、アシ、オギ

11月15日

台峯も秋を迎え紅葉はもちろんですが、主役も瞬く間に秋一色となりました。ジョウビタキに出迎えられ、キチョウ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ等チョウの観察も豊富でした。

・観察のテーマ:

1. 紅葉の始まり 紅葉する木 キブシ、エノキ、アカメガシワ、クワ

2. 紅葉する草 ミゾソバ、クサモミジ、ヤマノイモ
3. 晩秋の草の実 ハダカホウズキ、スズメウリ
4. 晩秋のチョウ ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、キタテハ、キチョウ

達の緑地保全活動も、当初の目標を達成することに成ります。基金の今後を皆様と共に考えて行きたいと思えます。今後ともご協力宜しくお願い致します。

理事 望月 晶夫

12月20日

その年最後の「台峯を歩く会」と成りました。

11月23日に開催された「会員の集い」も30名の参加が有り、盛況でした。

・観察のテーマ:

1. 北鎌倉は隠れモミジの里 増えているイロハモミジ(イロハカエデ)
2. ハゼノキの紅葉、テイカカズラの紅葉、マルバウツギの紅葉、コナラの黄葉

<2021年>

1月17日

2月7日迄神奈川県は新型コロナ緊急事態宣言下です。無理のない範囲で実施。

アカハラを田んぼで見る事が出来、皆さん感激でした。

・観察のテーマ:

1. よく似た雑木林の樹木 クヌギ、コナラ、イヌシデ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ
2. 増えてきた雑木林の樹木 カラスザンショウ、ミズキ、ハゼノキ

なお、2月7日に、今年もヤマアカガエルの卵塊を7つほど見つけました。工事、台風、そしてコロナにもめげず頑張っています。保全出来て本当に良かったと思えます。

コロナウイルス問題は現状予測がつきません。一方鎌倉市は2021年4月~22年3月中に緑地公園として開園の予定です。私

鎌倉と海軍 ①

台峯から北鎌倉女子学園側へ下り、光照寺の方へ曲がると、古くからの鎌倉であるとしたら珍しく、幅広の道が一本真っ直ぐに台山の背の上を通っている。実は北鎌倉駅開設後の昭和の初めに旧海軍の高官用に開発された住宅地であるらしい。

家人が年末整理で廃棄しようとして、数年前に届いていた小冊子*に或る老碩学からの寄稿文を見つけてくれた。6才程の1934年から約20年間この「海軍通り」に住み、その後半世紀以上ぶりに東京から戻ってきて、何と大きな変化か、と驚かされている。文章の主旨はもっと哲学的なのだが、具体的な事柄にも触れられていて、

・「今」は台山に200軒以上ある家がかつては12, 3軒だけで、大船側の坂から東海道線の線路際まで見渡す限り田圃だった

・海軍高官方の居住地ながら南雲中将宅を含め自家用車などなかったが、「今」は通勤時に交通渋滞も見られるほどである

・以前は犬を飼う家は2, 3軒だったが、「今」では朝夕の犬の散歩時は飼い主たちの声が喧しく飛び交わされる有様、等々

上記の「今」とは既に数年前のことである。現在は家も自動車も犬も更に増えているかもしれない。老碩学はどれほど驚かされていることだろうか。

鎌倉と海軍、について以下調べてみました。

(*川村輝典氏「東京女子大学同窓会報」第59号 2014.9.15)

.....

北鎌倉「緑の洞門」

.....

横須賀線北鎌倉駅の降りホーム沿いにある尾根は、重要文化財「円覚寺境内絵図」に描かれている歴史的な地形だ。国指定史跡への追加も検討されているその尾根は、素掘りされたトンネル「緑の洞門」とともに住民や観光客に親しまれています。その洞門が今年の4月で、6年間も閉鎖されているのです。

2015年4月、安全対策を理由に洞門は突如通行止めとなりました。しかし2016年7月鎌倉市文化財専門委員会で保存の答申が出され、洞門を保存する安全対策工法へと方針転換する事となりました。其ノ後市長は工法（現在3案が示されている）が決定する迄早急に仮設工事を行う事を2回に亘り公約いたしましたが、未だに着工されていません。

当基金は当初より「北鎌倉の洞門を守る会」に協賛し、保存運動に協力してまいりました。鎌倉らしい風情の残る「緑の洞門」の保存運動は将来へ大切な遺産を残す事を目標とし、当基金の理念に合わせその価値を共有するものと思います。

1973年に制定された「鎌倉市民憲章」は、鎌倉市の歴史的遺産と自然及び生活環境を破壊より守り、責任をもってこれを後世に伝えます、と謳いあげ、住民自治の確立を発揚しています。

鎌倉市政が、この精神を尊重する事を願ってやみません。

— 先頃2月26日の鎌倉市建設常任委員会で洞門問題が取り上げられたのですが、本来関連の無いコロナ禍を理由に見送りとなりました —

理事長 出口 克浩

ハクモクレンが満開

権兵衛踏切そばのマンション建設で伐採されかけ、皆様の願いで守られたハクモクレンが、今年は元気に満開となりました。いずれ元の高さに戻るでしょうか。(2021/3/5)



鎌倉と海軍②

鎌倉に限らないが、敗戦後、特に恩給が復活するまでの何年間か、元海軍士官の家庭は皆生活に苦勞されたようだ。

例えば、戦後闇米を断った宇川済中将(1879-1977)は、本来軍用鳩の餌だった玉蜀黍を食用に貰うため、自ら旧式の重いリヤカーを逗子まで曳いて行った。鎌倉の^{まちなか}街中は知った人に悟られぬよう古いスキー帽を目深に顔を隠し、帰りの小袋坂の厳しい上りでは逆に顎を出し、最後の自宅前の坂道も偶々出会った近所の方に押しもらい漸く上って帰れたが、その家とは実に本誌前号の「台峯の周辺⑳」で芸術家の多く居住したところとして取り上げた「浄智寺」の山内^{さんない}にあったのだった。

中将によると、戦争の敗勢が濃くなって以来「妻は一切の趣味好尚を断ってしまった」だったが、本来和洋音楽の嗜みも、新旧観劇や茶道・華道などの楽しみも深いものがあつた、という(『鎌倉水交会二十五年史』)。

ネットで調べると、確かに東京藝大音楽部資料室へ某教授から寄贈・保存される手紙類の中には「宇川碌、済、あさ関係」などと記されたものがある。中将一族からの音楽絡みの書状なのか。プロではなくても、愛好家として芸術を戦前にこの浄智寺界限で支えていたのだろう。

.....
 鳥の名前よもやま噺
 第八話 エピローグ 「ばか尽し」

人の世界はコロナ騒ぎでも、例年の様にジョウビタキが、鎌倉にも来てくれました。この鳥の学名は *Phoenicurus aureus* (Pallas, 1776)、英名は Daurian Redstart といいます。ベーリングのシベリア探検の時、Pallas がドーリア地方で見つけ命名しています。Dauria は地名でバイカル湖の東の地域です。本来なら、ここから横文字の解説や命名史の話になるのですが、今回はエピローグなので「馬鹿の噺」をいたします。



<ジョウビタキ めと♀> *Phoenicurus aureus* by Alpsdake is licensed under CC BY SA3.0

このかわいいジョウビタキでさえ、沢山の俗称の中に「ばかづくし」と云う呼び名があります。精しく鳥の名前を調べていくと、人を恐れず簡単に捕まる事からか、簡単に罠にかかるといふ事か、はたまた、その鳥の容姿や顔つき、動作などからか。洋の東西を問わず、「馬鹿」、「間抜け」、「あほう」、「とんま」と云う意味の鳥名が、実に多いことに驚きました。

標準和名のなかでもアホウドリがあります。この漢字は信天翁と書きますが、普通の人は阿呆鳥と考えます。標準和名をべつに、俗称ともなると、「ばかどり」と呼ばれる

鳥が実に多いのは驚きです。「ばか」、「ばかがも」、「ばかかもめ」、「ばかさぎ」、「ばかしぎ」、「のうなしたか」、「ばかびたき」、「ばかがらす」、「おばかどり」など枚挙に暇ありません。

横文字の方で最もひどいのはクロアジサシの名前です。クロアジサシの学名は *Anous stolidus* (L., 1758) です。クロアジサシ属を表す *Anous* はギリシャ語で、「おろかももの」の意です。種名の *stolidus* はラテン語で「馬鹿」、「おろか」、「のろま」の意味です。英名は Common Noddy とか Brown Noddy となっています。Noddy はクロアジサシの属名ですが、「間抜け」、「とんま」の意味です。ギリシャ語、ラテン語、英語まで、馬鹿をそろえたのは、命名者リンネの責任ではありません。リンネは 1758 年、『自然の体系』第 10 版で *Sterna stolidus* と命名しています。これだと最初の属名、*Sterna* (アジサシ属) は古代英語のアジサシ名 *stern* をラテン語化したので、馬鹿の意味はなさそうです。ところが 1826 年になって Stephens がクロアジサシ属 (*Anous*) を独立させたので、命名史の過程で属名種名とも馬鹿になってしまいました。私はまだクロアジサシを見たことはありませんが、何とも気の毒な気がいたします。

Anous stolidus by Forest & Kim Starr is licensed under CC

BY SA 3.0 <クロアジサシ>



Eudromias morinellus by Helwig



Brunner is licensed under CC BY SA2.5. <コバシチドリ>

また、コバシチドリの学名の種名は *morinellus* で、これも小馬鹿の意味、英名

の Dottrel もやはり馬鹿の意味です。英名だけで馬鹿の意味が含まれているのは、よくブービー賞などで日本語化している Booby が カツオドリの英名です。カッコウの Cockoo、オオバンの Coot、ヤマシギの Woodcock、オウチュウの Drongo など、全て馬鹿の意味を持っています。フクロウ目の夜行性の鳥につけられる Owl も「賢そうに見える馬鹿者」の意味で、これは第四話で紹介しました。

さて最後に人間は鳥たちの名前に勝手に馬鹿、バカと名付けてきましたが、多分、鳥たちの方では、自分自身の破滅になることを知りながら、自然破壊を止められない人間どもの行為を見て、「何が Homo sapiens か (Homo: ヒト、sapiens: 賢い)、オコガマシイ、お前たちこそ、地球の生物の中で第一番の大馬鹿だ」と名付けているに違いありません。あまり、馬鹿、バカと云っていると、クボアジサシではなくて、クボアジサシだと言われそうで幕を引きます。

本来なら、この第八話はコチョウゲンボウの英名、マーリン merlin と、イギリスの古い歴史アーサー王物語に活躍する魔法使いの Merlin の話を予定していました。しかし、今回は最後の発行になると聞いたので、かねて最後に載せていただこうと思っていた「ばか尽し」の噺で、幕を閉じる事にしました。

.....

この連載を通して、身近で見られる鳥の、標準和名、俗称、学名、英名などと共に、もう少し命名史の話をするつもりでしたが、終わりになりました。

毎回、拙い原稿を、引き立てて下さった本田さんの素晴らしい編集に、心から御礼と感謝申し上げます。

本当に拙文に最後までお付き合いいただき、心より御礼申し上げます。

久保 順三

— 写真はいずれも Wikipedia より

鎌倉と海軍 ③

「海軍通り」や浄智寺に限らず、鎌倉市内には海軍関係者が多数居住したようで、資料によると、時代ごとの現役海軍士官(ここでは将官および佐官のみ)の市内居住状況は①明治 33 年: 2 名のみが、②大正 8 年: 87 名、③昭和 8 年: 147 名と次第に増えてきたことが分る。けれども、それ以降の数値がないので、日米開戦直前の、恐らくは海軍が最も隆盛を極めた頃と思われる④昭和 16 年の海軍士官名簿から拾い上げてカウントしてみると、262 名にも上った。

非現役を加え、将官だけに絞ると、①: 1<0>名、②: 4<2>名、③: 22<15>名、④は当時現役の南雲中将、非現役の宇川中将はじめ 44<31>名となる。<>内はうち非現役の人数だが、引退した将官が多数老後を鎌倉で過ごしていたということか。

なお、殊に当コラム①の「海軍通り」だけとると、④はこれが開発されてから数年後に当たるが、現役の将官・佐官が計 6 名、また非現役は将官のみ調べた数値で 1 名が、その住所として「神奈川縣大船町臺山」の番地が掲載されていた。

①～④は『鎌倉水交会二十五年史』による。
④は靖国借行文庫で閲覧した『昭和十六年度水交社員名簿』よりカウントした。但し、その後の市域の拡大を考慮に入れ、また将官には兵科将校以外の造船・造機・軍医・主計等の将校相当官を含めたが、そうした方法が①～④においてと全く同じものであるかは不明。

本田 隆史

台峯の周辺 ② 『鎌倉衛生時報』

昭和24年10月から毎月、台峯周辺を含め鎌倉市内の家庭には医療・保健衛生関係の広報紙『鎌倉衛生時報』が配布されている。市健康保険部市民健康課内の、医師・歯科医・獣医等の各会から成る鎌倉衛生協会の編集・発行とのことで、人だけでなく犬などペットの健康記事も何故か多く掲載される。



〈最近の『鎌倉衛生時報』R3/3から〉

ところで本誌28号の当欄において昭和初めに鈴木大拙夫人ピアトリスが北鎌倉で創設した野犬の収容施設「動物愛護慈悲園」に触れた際、『～時報』の昭和38年12月号を引いて、「昭和19年まで百頭もの犬が某所で飼われていたとの記事がある。本園のことかもしれない」と註を付したことがあった。

本来もっと調べるべきだったのだが、原文の末尾には「千禄」という雅号めいた名があるだけなので、その時はそれ以上追わず後日に期したのである。その後、翌昭和39年1月号上で同紙関係者連名の新年挨拶に「田中浅六」という名を発見、同じく「センロク」なら「千禄」とは田中浅六氏なのではあるまいか。

更に他の号も読み進めて分ったが、この浅六氏が市衛生課員として戦後『～時報』創刊を企画、亡くなるまで20年間に亘り編集主事を務められたとのこと。また時に「千禄」名で埋め草的な文章も執筆されたようだ。そ

れでは、本誌における筆者も創刊以外は氏と似た立場かもしれぬ、レベルは遠く及ばぬが。

田中浅六氏(1893-1969)を調べると、今や多くが分る。田中家はヒゲタ醤油創業に関わる名家だが、父の友輔は海で溺れた際に犬に助けられたことから、単なる趣味や営利だけではない、「信念から良心的な」、日本初の本格的畜犬商「大日本獵犬商会」を明治30年麻布で開業、次男浅六氏も若くして手伝うことに。氏は獣医学を学んだ後、商いのみならず、『犬の雑誌』の発刊・編集・「千禄」名での執筆、また狩猟にも活躍、皇族の伏見宮博義の狩りには数十回も随行したと伝わる。

狩猟というと我々の自然保護活動とは一見対極のようだが、近年その意義が見直されている。また畜犬商は大規模で近代的な犬舎や店舗を永らく構えていた。この間の氏は狩猟史や畜犬関係の研究対象である。

しかし戦争の影響か、やがて閉店、廃業。戦後鎌倉の役場に奉職し、衛生関係の広報誌を発行したことは、斯界の研究者にとって関心外のためか調査も不十分らしく、氏の「その後は行方不明」などとされたりしている。

それにしても食糧難の戦時下、軍服の毛皮用に犬の献納運動などある中で、手許の愛犬百頭を手放さねばならなかった悲しみは如何ばかりだったろう。『～時報』に人だけでなく犬の記事が多くなった理由も分る気がする。(「～慈悲園」とは無関係のようなので、お詫びして訂正します)

理事 本田 隆史



〈狩での雄姿『～時報』S37/11〉

活動記録

(2020年10月～2021年2月)

- 1 市公園課との打合せ
2/24
- 2 会員の集い
11/23
- 3 理事会
10/4,11/1, 12/6,1/10,2/7
- 4 台峯を歩く会
10/18,11/15,12/20, 1/17,2/21
- 5 山の手入れ
11/14,12/19,1/16,2/20
- 6 モニタリング
11/1,11/14, 12/6,12/19, 1/10,1/16,,2/7,2/20

『鎌倉市の蝶 通信』

美しい第5号を浅野勝司様(会員)が発行され、事務局も頂戴しました。当誌をご希望の方は直接同氏宛ご連絡下さい。

なお、この「4月10～25日の風もなく、天気の良い平日(土日は人出が多いので避けます)の午前中(9時半頃から11時半頃)に鎌倉中央公園でツマキチョウの観察をしています。登山靴を履き、湘南ベルマーレの青い帽子をかぶり、青いベストを着て、ニコンDに300mmの望遠レンズを首からぶら下げた、小太りの背の低いお爺さんを見かけましたら声をかけて下さい。お会いできましたら嬉しいです。」とのこと。

〒247-0072 鎌倉市岡本 1241-4

鎌倉ロジュマン C-911

Phone: 0467-43-1134 090-1552-2370

Eメール: asa-chou@xg7.so-net.ne.jp

<台峯に春が>

(3/20)



谷戸の池にカワセミが。幼鳥とのこと。

原稿募集

本誌冒頭の理事長の言葉にもありますが、理事会としてはNPO法人である当基金を今秋に解散し、後継任意団体が設立される見込みです。

つきましては、皆様からご寄稿を頂いて、解散記念の会報最終号を発行したい、と事務局は考えております。

楽しかったこと、苦しかったこと、草上で召し上がったお弁当の味など様々な思い出話、好きな台峯の場所や景色、今後への期待、どんな内容でも結構です。長さはご自由ですが、一応の目安として 400字以内では如何でしょうか。紙ベースなどの郵送でしたら、〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷3-2-12 本田方 北鎌倉台峯トラスト 事務局宛、Eメールでしたら、inquiry@daimine-trust.sakura.ne.jp 宛、いずれも本年7月末までをお願い申し上げます。

原則として頂いた玉稿は原文のまま掲載しますが、都合により適宜加除や取捨もありうることを予めご容赦下さい。

では、沢山のご寄稿をお待ちしております。

事務局 本田 隆史